

## 水環境を守るのは家庭から —生ごみリサイクルの活動—

小串漁協婦人部  
摺 河 里 美

### 1. 地域と漁業の概況

私の住んでいる小串地区は、岡山市の最南端部で児島湾の湾口部に位置し、戸数約650戸の農漁村地域である。近くには瀬戸内海国立公園に属する光南台と展望豊かな金甲山があり、風光明媚な所である。

組合員は、正組合員32名、準組合員58名で、主な漁業は夏場は小型底曳き網漁、つば網漁を営んでおり、冬になると19戸がのり養殖に携わっている。

### 2. グループの組織と運営

私たちの婦人部は昭和36年に結成され、現在の部員数は18名となっている。役員は部長1名、副部長1名、会計監事2名で任期は2年である。

運営については、1人年間1,000円の会費と朝市、共同購入等の手数料でまかっている。

### 3. 実践課題の選定と動機

私たちの小串地区は先に述べたように、児島湾に面しており、児島湖からの水が児島湖の締め切り堤防の開閉により流れ出る水、つまり生活排水や旭川、吉井川からの淡水と海水が混じりあう所にあたると言える。

海の汚れを防ぐことは私たちにとって大きな課題である。そのため私たちの所からは、もう汚れたものは流すことのないようにしようと、以前から石けんやクリーンネットの使用推進、手作り石けんなど普段の生活の中でできることから取り組んできた。

そのような中で、昨年4月の「環境シンポジウム」で「ボカシによる生ごみリサイクル」について井原市の方からの発表があった。これは、毎日私たちが出す生ごみをボカシを使用して発酵させ、それを田畑や花壇に使用するリサイクル方法である。これには強く共感した。「これなら私たちでもできる!」と早速帰って皆にも呼びかけた。その後、県漁婦連の企画でこの運動の拠点になっている岡山県西部の井原市への視察研修がなされた。井原市では、EMボカシによる生ごみリサイクルが、市のゴミ処理の一環に組み込まれており、その普及活動として、クッキングアドバイザー業務を市民グループに委託して、環境問題に取り組んでいる。EMボカシによる生ごみリサイクルは生ごみの減量化にもなり、土の中に埋めて発酵させることでたい肥を作ることでもできる。また、生ごみのボカシ処理の利用方法としてバケツの底にたまった液も下水や池、川、溝に流すと澄んだきれいな水になるということも聞いた。

婦人部ではこの運動への取り組みについて一度会合をもつことにした。いまでも海へ生

ゴミを捨てている人もいるようだとの声もあった。皆の意見は『生活環境を守るのは家庭からなんだから婦人部で取り組んでみよう』ということで新たな活動がスタートした。

#### 4. 実践活動の状況とその成果

まずこの運動の目的を明確にしておくためEM菌によるボカシづくりのビデオを借りて学習会を開いた。その結果、「これなら私たちにもできる」と確信ある言葉がかえってきた。しかし、私にはまだ不安があった。それはボカシがたくさんできても「上手に使えなかったら・・・」という不安だった。

そこで思い出したのが、近隣の西大寺農協婦人部がボカシをつくっていることである。

早速取り寄せみなさんと分け合って使ってみた。その結果すばらしい生ごみ堆肥ができたのである。

こうしてビデオで研修したり、市販されている製品を使って研究を重ねるうちに、「自分たちの手で作るのが一番」という結論で出て、親戚からもみ殻を調達してくる人、用具を調達する人などと分担してこの時ばかりは目分量でなく、きっちりと計ってわいわい言いながら作ってみた。混ぜ合わすのは簡単だったが発酵させる時、温度が高すぎても、低過ぎてもいけないので、このときの温度管理が大変だった。できあがったものを各自、自宅へ持ち帰り成果を託すことにした。その結果は別表の通りであったが、中にはうまく管理できなかった人もいた。

生ゴミのボカシ合えは、密封できるバケツに生ゴミを入れ、その上からボカシを振りかける。これをバケツが一杯になるまで繰り返すのである。このバケツは台所のすみに置いていても生ゴミ特有のいやなおい匂いはない。ボカシの甘酸っぱいにおいがするだけだから夏でも安心して実践することができる。

その後おこなわれた漁婦連主催の研修会では講師の先生から環境浄化のためにこのボカシがいろいろに使えることを学んだ。その中で、ボカシ処理の後、バケツの底にたまった浸出液の利用に興味をもって聞くことができた。

- それは
- ①浸出液が液肥としても重宝されること
  - ②この液はトイレの臭い匂い消しにもなること
  - ③また流しの排水管のよごれを除去するにも効果的であることなどだった。

農家では堆肥に利用すると植物の成育がよく、長い期間収穫できるという話をよく聞くが、私たちは堆肥作りはもちろんだけれど、浸出液が水をきれいにする力があることに注目したいと思った。すなわちこれが私たちの大きな目標だからである。

私たちのところでもせっかくよい堆肥ができたので、いろいろと試してみようということに話がまとまり、まず、できた堆肥を土の中に返してみた。そして花や野菜に使ってみた。部員の中にはすぐ植えたので発育が悪くなり植え替えた人も1人いたが、ほとんどの人が順調にいつもよりよいものができた。

つぎに 浸出液を液肥として野菜にかけてみた。液肥にする時は1000倍に薄めて使用してみた。肥料としてかけたが虫もこなかったようである。また液肥を流しの排水口に流し込んでみた。夜寝る前に5~10倍に薄めて流してみた。数回して排水管の汚れがきれいに排除されているのを発見した。トイレのにおい消しにも使ってみたが、くみ取り式でないなのでその効果はわからなかった。このように目で見、肌で感じる面はたくさんあ

た。しかし本来の目的である水の環境改善に役だっているだろうか疑問でいっぱいだったそこで、水がきれいになることを目で確かめたいと、私は池の水や用水さらに金魚の入った水槽に0.1%のEM液をいれてみた。毎日、楽しみにして観察していたが20日たっても金魚はエサを与えなくても元気になっている意外、目では観察できなかったのが漁連から公的機関へ化学的検査を依頼した。その結果は0.1%EM液についてはPH, BOD, COD, 浮遊物, 全窒素, 全リンのすべてについて元の水に比べると数値は下がっていた

また、同様に生ゴミボカシによってできた液肥を入れた検査もしてもらった。これについては発酵も未熟だったようでいい結果は得られなかったが、浮遊物に対する効果は大きかった。今度は生ゴミボカシも十分発酵した段階で、そして加えた液肥の濃度も変えながら調べてみたいと思っている。

次に私たちは、小串地区の漁家でない方が水に関してどのように思っているのかアンケート形式で調査を試みた。その結果、周囲の川や水路はあまりきれいでないと感じている人が7割ぐらいいた。また、台所の流しやゴミコーナーのクリーンネットの使用状況については、半数の人が使用しているという回答だった。生ゴミ処理については、水切りして、市の収集に出す人が約7割、また、畑に埋める人が2割いた。次に生ゴミについてどんな処理が望ましいかをたずねてみたところ、市の収集に任せるという人が約6割だったが、約3割の人は各家庭で堆肥にして活用したいという結果だった。以上のことから、私たちの実践しているEMボカシによる生ゴミ処理について今後地域の人たちにも呼びかけていく必要性を感じた。とにかく私たち婦人部もいろいろと体験しているうちに水環境に対する関心もよりおおきくなったようで、私たちが以前からすすめている台所でのクリーンネットの使用の大切さも強く感じるようになった。

## 5. 波及効果

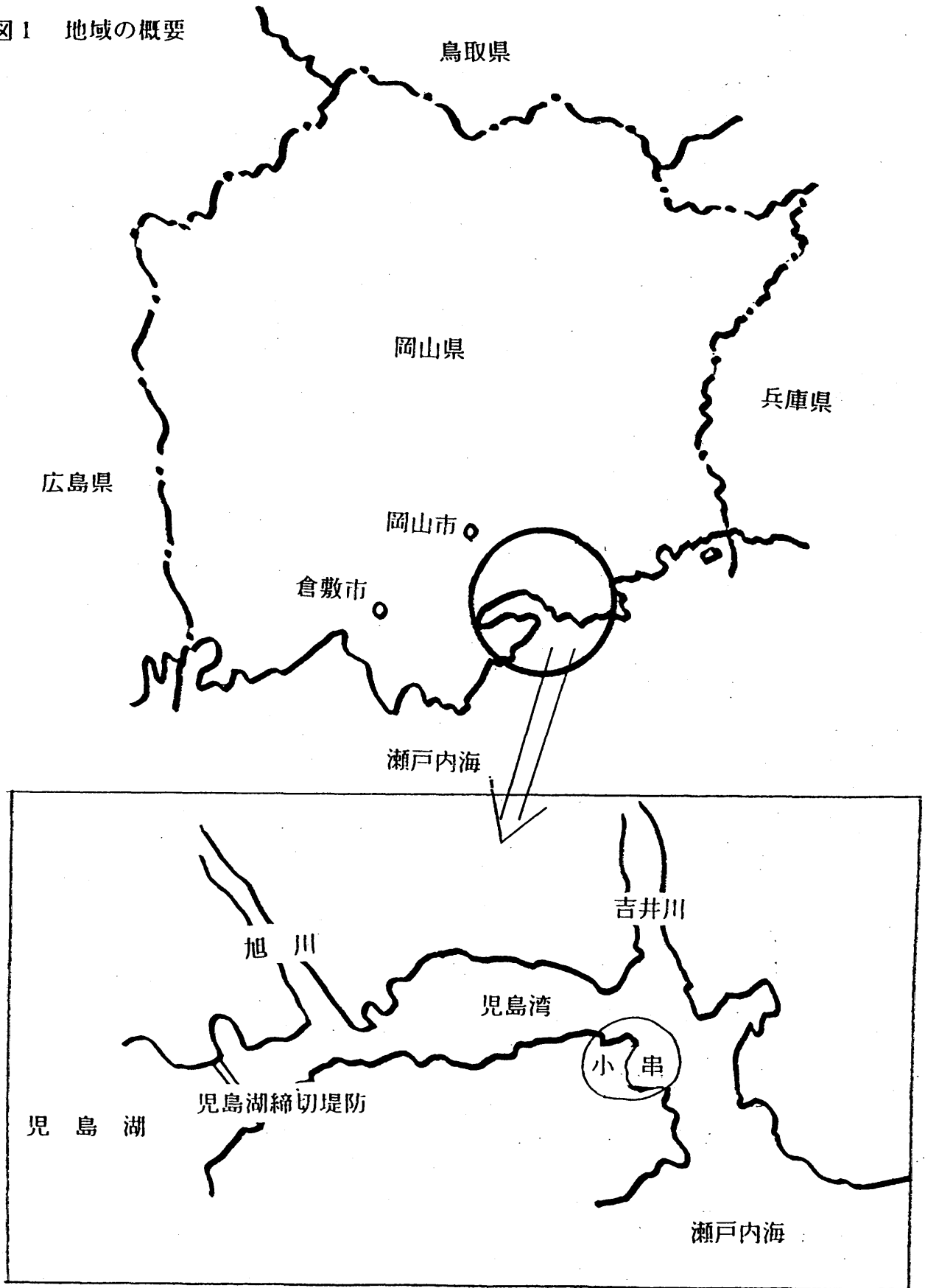
EM菌を使ったボカシ作りは最近各地で急速に普及してきている。私の近所の畜産農家ではすでに取り組んでおり、牛舎の悪臭防止に使っていると聞いた。部員の中には嫁いでいった娘に自分が作ったボカシを持たせたところ、浸出液まで上手に利用しているということも聞いている。また、アンケートがきっかけで、地域の方からもボカシについての問い合わせがあるなど、ゴミ処理についての話題が広がっている。

私たちの取り組みは、まだまだ始めたばかりだが、いろいろと貴重な体験をさせてもらっている。部員だけでは解決できないことばかりだが、「今、私たちにできること」として、このボカシづくりが河川の浄化に一役買えるのではないかと夢をふくらませて取り組んでいる。

## 6. 今後の活動計画と問題点

私たちはこの運動を今後も仲間を増やしながら続けていくつもりである。そのためには漁協婦人部のこの活動を知ってもらえるような広報活動をしていく計画である。例えば、「農山漁村女性の日のつどい」に参加して、私たちの活動の成果を紹介し、環境問題について更に協力を得られるように啓発していく。また、海を汚さないための手作りのPR紙を作成し、農家の人たちとも連携いしながら、地域環境にやさしい暮らし方ができるように活動の輪を広げていきたいと思っている。

図1 地域の概要



1. 婦人部員のEM菌ボカシの生ゴミの状態

(回答者18人)

表1

悪臭なし、うじ・蠅発生なし	85% (15人)
悪臭が出た	5% (1人)
うじや蠅が出た	5% (1人)
かびが発生した	5% (1人)

2. 地域の人達の水に関するアンケート (回答者40人)

①周辺の水や水路状況

表2

あまりきれいでない	68% (27人)
きれい	7% (3人)
わからない	10% (4人)

②クリーンネットの使用状況

表3

ゴミコーナーや排水口	50% (20人)
使用しない	25% (10人)

③生ゴミの処理状況

表4

水切り後収集に出す	68% (27人)
畑に埋める	20% (8人)
堆肥化容器を使用	12% (5人)

④望ましい生ゴミの処理

表5

市の収集に任せる	60% (24人)
家庭で堆肥化	28% (11人)
その他	12% (5人)